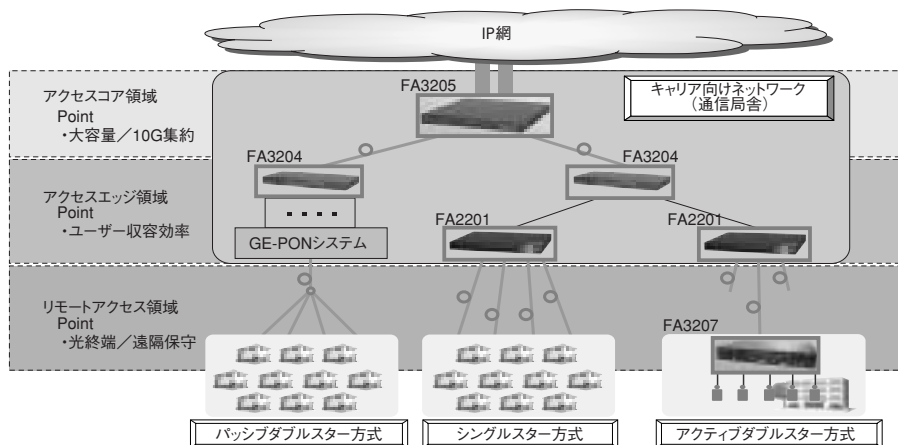


レイヤー2スイッチシリーズ

アクセスネットワークはコンシューマーサービスだけでなく専用線サービスにおいても、高いコストパフォーマンスを要求されています。また、適用するサービスや収容者数などさまざまな条件によってネットワーク構成の多様化が進んでいます。特にキャリア向けのレイヤー2ネットワークにおいては、その傾向が顕著です。

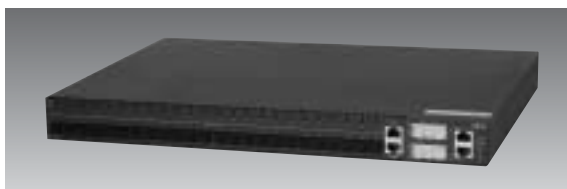
富士通アクセスは、このようなお客様の多様なニーズに応えるため、さまざまな用途に適したレイヤー2スイッチシリーズを開発し、リリースしています。

今回はアクセスネットワーク向けのレイヤー2スイッチ製品を紹介します。



システム構成例

光アクセススイッチ



FA2201

拡大するFTTH (Fiber To The Home) のニーズに対応するために開発されたレイヤー2スイッチです。Uplinkポートはギガイーサネットインターフェース(電気および光)を2ポート有し、光ファイバー1芯で100Mbps双方向伝送が可能なTTC TS-1000準拠のDownlink光ポートを24ポート有しています。Downlinkポート間通信を防ぐ機能や優先制御機能など、FTTHアクセスネットワークに必要な機能を搭載しています。また、FTTHだけでなく、LANケーブルの届かない広い敷地内で建屋間の企業内LAN構築用としても最適です。

ファーストイーサネットアクセススイッチ



FA3207

ボックス型スイッチでは軽視されがちな施工性・拡張性にも配慮しながら開発しました。電源部の冗長構成による高い信頼性や、AC100Vだけでなく、DC-48V電源対応も実現しました。また、オール前面アクセスによって狭いスペースへの設置、および保守が可能です。

さらに、消耗部品である空冷FANを装置前面からオンライン交換可能な構造としています。FA2201と接続可能な100Mbps双方向伝送が可能なTTC TS-1000準拠のメディアコンバーター盤を最大2枚増設可能としています。

ギガビットイーサネットアクセススイッチ



FA3204

ギガビットイーサネットの効率的な集約を目的とし、FTTHアクセスエッジ部分での用途を想定したレイヤー 2 スイッチです。電気ギガイーサネット 24ポート、光ギガイーサネット 4ポートの内合計 24ポートまで使用可能であり、あらゆるネットワークに柔軟に対応可能です。また、VLANを 4094使用可能であり、更にブロードキャストストーム発生検出したときに起動する自動ストーム制御機能など、ネットワークのエッジ～コアのエリアを十分にカバーできる機能を搭載しました。

オプションとして外部冗長電源ユニットもメニュー化されており、信頼性の向上が可能です。

ギガビットオプティカルアクセススイッチ



FA3205

アクセスネットワークにおける光ギガイーサネットの効率的な集約を実現します。インターフェースは光ギガイーサネットを 24ポート、電気ギガイーサネットを 4ポートを搭載しています（合計 24ポートまで使用可能）。FA3204と同様に外部冗長電源ユニットにも対応しています。

さらに、本装置は将来オプションとして 10ギガイーサネットインターフェースボードを増設可能であり、10ギガイーサネットを最大 2ポートまで収容可能です。レイヤー 2 メトロネットワークのエッジスイッチとして最適な製品です。

主要諸元

項目	FA2201	FA3207	FA3204	FA3205
インターフェース	TS-1000準拠(センター側) 100BASE-FX ×24 10/100/1000BASE-T×2 1000BASE-SX/LX×2 (GBIC) ※GBICと電気ギガポートは排他使用	10/100BASE-TX ×24 TS-1000準拠(端末側) 100BASE-FX ×2 ※オプションのMC-IF盤実装時 10/100/1000BASE-T×2 1000BASE-SX/LX×2 (SFP) ※SFPと電気ギガポートは排他使用	10/100/1000BASE-T×24 1000BASE-SX/LX×4 (SFP) ※合計24ポートまで使用可能	10/100/1000BASE-T×4 1000BASE-SX/LX×24 (SFP) ※合計24ポートまで使用可能
監視ポート	RS-232C ×1 10BASE-T ×1	RS-232C ×1 10/100BASE-TX ×1	RS-232C ×1	RS-232C ×1
MAC学習数	8K	16K	16K	16K
スイッチング容量	8.8Gbps	12.8Gbps	48Gbps	128Gbps